2025年6月議会審議日程

	曜	会議	場所	備考
6月3日	火	本会議	議場	議案提案･総括質疑 先行議決案件の審議･採択
6月4日	水	厚生 委員会	第一 委員会室	付託案件の審査 （平良木議員担当）
6月5日	木	農政建設 委員会	第一 委員会室	付託案件の審査
6月6日	金	文教経済 委員会	第一 委員会室	付託案件の審査 （上野議員担当）
6月9日	月	総務 委員会	第一 委員会室	（付託案件の審査） 橋爪議員担当
6月10日	火	一般質問	議場	各議員の質問日は 別項の通りです
6月11日	水	一般質問	議場	
6月12日	木	一般質問	議場	
6月13日	金	一般質問	議場	
6月17日	火	本会議	議場	議案採決など

議会日程が決まる議会運営委員会の日取りと、このニュースの編集の日取りの関係で、議会日程のお知らせが大変遅くなりましたことをお詫びいたします。

「広い共同でこそ政治は変えられる」 石川康宏氏の5/24講演より①

5月24日に行われた「平和･民主･革新の日本をめざす上越の会準備会」主催の石川康宏氏の講演は、現在の政治状況をわかりやすく的確に解き明かし、私たちの運動の方向性を指し示すものでした。そこで、何回かに分けて、概要を紹介します。

1．石破政権がやっていること

軍拡最優先の政治方向

2022年度以降、軍事費は加速度的に増加し、10年間で約2倍になってきている。



2025年度予算は、ほとんどの分野で物価上昇に追いつかない予算＝暮らしマイナス予算になっているが、軍事費だけが突出している。これに対し、国会で軍事費を正面から削れといっているのは共産党だけである。

2013年に制定されたわが国初の国家安全保障戦略により、いわゆる「積極的平和主義」の下で平和安全法制(＝戦争法)が強行され、戦争に対応できる枠組みが整えられた。

2022年度以降の軍事費の急増は、その枠組みを実行するための軍備を実際に装備するための予算措置になっている。

日本共産党上越市議員団ニュース
No.874　2025年6月8日

連　上野　公悦　090-7260-9407（頸城区中柳町）
絡　橋爪　法一　090-5392-1961（吉川区代石）
先　平良木哲也　090-1808-6919（上中田（金谷区））
ホームページ　https://jcpjoetsugiindan.webnode.jp/

3人それぞれ市民の暮らし守る質問を準備 党議員の一般質問

6月議会での党議員団の3人の議員の一般質問の予定日時、内容は次の通りです。

上野公悦議員

（6番目　10日午後の予定）

1．連続する学校給食事故について

(1) 学校給食時のアレルギー発症事故、蛍光灯ガラス片混入、漂白剤混入水の誤飲事故、大島庄屋の家での毒素成分を含む食事提供事故等、子どもたちの安全・安心が危惧される事故が連続して起きた。

ア　連続して起きたのはなぜか。安全への意識欠如など根深い問題があるのではないか。

イ　市民への謝罪、組織としての強い自覚とマニュアルの強化、市の指導が必要と考えるがどうか。

2．柏崎刈羽原発の再稼働について

(1) 原発再稼働の是非を問う県民投票条例が県議会で否決され、県民の意思を示す機会が失われたが、市長はどう考えているか。

(2) 知事は、国が示した「屋内待避」で被ばくの危険性は回避されると判断できるなどとして、再稼働についての判断材料が整ったと評価しているが、市長はこのことをどう思うか。

(3) 知事は今後再稼働是非の最終判断については県民や首長の考えを聞くとしているが、市長はどう答えるのか。また、その際市民の意見をどのような方法で聞くのか。

平良木哲也議員

（19番目　12日午後の予定）

1．帯状疱疹予防接種助成について

(1) 制度設計で当市独自の必要性の検討はどのように行ったのか。

(2) 対象年齢や助成額の根拠は何か。また、接種意欲を喚起できるのか。

(3) 市内の帯状疱疹治療の専門家とは相談したのか。

2．原発再稼働の動きについて

(1) 県が行った実務担当者会議と首長説明会の内容を聞きたい。

(2) 県の被ばく線量シミュレーションなどについて、どう考えているか。

(3) 現在の避難計画で市民の命を救うことができると考えているのか。

(4) 国や県の責任で、総合的で実効性ある避難計画にすべきではないか。

(5) 避難場所を市民にあらためて周知徹底すべきではないか。

3．介護職員の実情と処遇について

(1) 当市内のケアマネジャーの増減と充足状況はどうか。また、規定外の支援を行っている実態はないか。

(2) 訪問介護の専門スタッフの増減と充足状況はどうか。

(3) 当市における介護スタッフの労働実態を市はどう把握しているか。

(4) 市独自の処遇改善が必要ではないか。

橋爪法一議員

（20番目　13日午前の予定）

1．農業問題について

(1) コメ不足はなぜ起きたか、市長の認識を聞きたい。

(2) 上越の地域農業の担い手の現状と今後の対策の基本方向を聞きたい。

(3) 国に対してコメの増産と所得補償を働きかけるべきでないか。また、食料･農業･農村基本条例を持つ自治体として、思い切った増産目標と計画を打ち出すべきでないか。

2．地域医療対策について

(1) 日本病院会など6病院団体の訴えについての市長の認識を聞きたい。

(2) 県立松代病院の診療所への転換に対し、十日町市民とともに反対すべきではないか。

(3) 県立柿崎病院の「機能規模の適正化」に関する県の動きの最新情報と市長の考えを知りたい。